



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

油断ならない胆石 詰まると激しい痛みも

秋は健康診断の季節です。年末に向けて、体に無理が来ていないかチェックしてもらいましょう。

そのときはぜひ、超音波検査を受けてください。超音波検査は痛くもかゆくもない検査で、おなか全体を調べることができます。この超音波検査でよく発見されるのが胆石です。胆石は成人の10人に1人が持っているといわれています。ありふれた病気ではありませんが、決して油断して良い病気ではありません。

一言で胆石と言っても、胆石のある場所によって

その病態は大きく異なります。最も多いのが胆嚢内にある胆石で、80%、次は総胆管内が20%、肝内胆管は数%です。できる場所によって胆石の成分は異なりますが、主にコレステロールとビリルビン、カルシウムが含まれています。

胆嚢胆石はコレステロールが多く、総胆管結石はビリルビンカルシウム石が多いのですが、これらの成分が混じったものが最も多くみられます。胆嚢に石があってもコロコロ転がっているときにはほとんど症状はありません。

しかし、胆石が胆嚢の出口や細い胆管に詰まると、突然激しい痛みが出現します。主におなかのみぞおちから右上が痛み、右肩の方にも響くような痛みが起ります。これを胆石発作といえます。

胆石が詰まったり、離れたりすると弱い痛みが食後の度に起こるようなこともあります。特に脂っこいものを食べると胆嚢が大きく収縮するため、胆石がスボットとつまって激痛が起ります。

胆管が完全につまると黄疸が出ます。この状態に細菌感染症を併発すると重症となり、一刻も早く治療しないと、細菌が全身に回って敗血症となり死亡にまで至ります。

胆石を発見するために 超音波検査を受けましょう

このようなことが急に起らないよう超音波検査を受けて、胆石がないか確認しましょう。総胆管に胆石がある場合は早急に胆石を取る必要があります。今では内視鏡によって胆石を取り除いて掃除することができます。

胆嚢と総胆管の両方に胆石があるときは総胆管の石を内視鏡で取った後、胆嚢を切除する必要があります。一回の手術で両方を取ることありますが、少しおなかの傷が大きくなります。胆嚢にだけ石があり、

症状がない無症状胆石の場合は経過観察となります。コレステロール結石の場合はウルソデオキシコール酸という薬を使って、胆石を溶かし、胆汁の流れも良くします。

無症状胆石の患者さんが将来胆石発作をおこすかどうかは半々と言われていきます。急におなか痛くなった時、医師に胆石持ちであることを必ず話してください。診断の助けになり、治療も早くできるようになります。

でも、胆石ができないようにするのが一番です。肥満、糖尿病、高脂血症は危険因子で、脂っこいもの、コレステロールの多い食事、カロリーの取り過ぎに注意しましょう。超音波検査で胆石が見つかったら慌てず騒がず、日野病院の医師に相談してください。

